

2023（令和5）年度 パソコン実技試験問題（あらすじ）

テーマ「人口問題（少子高齢化と人口爆発）」

今日はこの後、人口問題を大学で研究されている木村先生から専門的なお話をさせていただきますが、その前に私から簡単に内容をお伝えします。

今の日本の最重要課題といわれているのが、「少子高齢化」問題です。

経済の低迷や自然災害などをおさえて「少子高齢化」が最重要課題に挙げられています。

「国家存亡の危機」と訴える研究者もいますが、実態を知ると大げさとも言えません。

2022年の日本の出生数は約77万人で、明治時代の統計開始以降初めて80万人を下回ったため、ずいぶん話題になりました。

このまま減り続けると、2065年には日本の総人口が9000万人を下回るといいます。

高齢化の影響は、私の家の周りにも広がっています。

向こう三軒両隣は、うちも含め65歳以上の夫婦のみの世帯、町内20軒に子どもは乳幼児が1人と小学生が1人だけという、超高齢化の町内です。

町内の共同行事や共同作業、例えば共同行事は盆踊りやスポーツ大会など、共同作業は草刈りや溝そうじなどですが、それらが次々と縮小や中止になっています。

最近では、町内会の役員選出も困難になってきました。

このまま日本の高齢化が進むなら、「国家存亡の危機」も決して大げさではありません。

この危機に対して政府は今年から「異次元の少子化対策」を打ち出しています。

国の資料を参考に、4つに分けてお話をします。

1つ目は、経済的支援の強化です。具体的には、まず児童手当の拡充、それも所得制限を撤廃した形です。親の所得にかかわらず等しく支給され、支給期間も高校までに延長されます。

それから、出産の経済的負担軽減です。具体的には出産育児一時金を42万円から50万円へ引き上げ、低所得の妊婦さんに初回の受診料を助成する体制などです。

2つ目は、すべての子ども・子育て世帯を対象とする支援の拡充です。例えば保育の質の向上、具体的には職員の配置基準や処遇などの改善です。

3つ目は、共働き・共育ての推進です。男性の育休が当たり前になる社会の実現に取り組むことなどです。

4つ目は、こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革です。

例えば「こどもまんなか応援サポーター」という取り組みがあります。

詳しくは後で木村先生に説明していただきますが、どの支援策も大事ですし、ぜひ実施してもらいたいですね。

日本が少子高齢化に悩んでいる一方で、世界全体では人口爆発という問題を抱えています。

人口爆発とは人口が急激に増えることですが、これは18世紀頃から現代にかけて起きたと言われています。それまでの長い間、世界の人口は緩やかに増加していたわけです。

現在、世界の人口は80億人を超えましたが、このまま急激に増加し続けたら、2055年には100億人を突破するという予想です。

人口爆発によって、どのような問題が起きるのでしょうか。

まず、消費が増えることで、食糧や水、エネルギーなどが不足します。

食料生産のために森林を開発して畑にするなどの環境破壊、地球温暖化の加速も想像されます。

また、食糧不足になると肉や魚だけでは足りなくなるため、「昆虫食」という言葉も最近よく聞きます。

資源不足によって貧困や経済格差の拡大ももたらされるでしょう。

人口の増加と減少、どちらも大きな問題です。人口問題の動向には注視が必要です。

スケールの大きな問題ですが、まずは現状を知ることが大切ですし、先生からも学んだ上で、できることはないかを考えていきたいと思います。

5分休憩した後、木村先生のご講演です。手元に資料の準備はありますか。A 4 両面印刷の資料 1 枚です。持っていない方は、受付にあるので講演開始までにとっておいてください。

以上です。

1499/2535 文字

2023（令和5）年度 手書き実技試験問題（あらすじ）

テーマ「今年の夏を振り返って」

9月も半ばなのに暑いですね。暑い中お集まりいただき、ありがとうございます。

秋祭りということで、最初に自治会長の私から少しお話をさせていただきます。

今日は地域の難聴の方がおられるので、要約筆記者がいます。

さて、今年の夏は酷暑でしたが、電気代が気になりエアコンをつけずに家にいるときもありました。涼しい場所を求めて家の中を移動していましたが、昼が近づくにつれ家の中はどこも30度を超えて、身の置き場がないような状態になります。

熱中症のニュースでは、最後に必ず「エアコンを適切に使いましょう」と言われますが、「電気代を立て替えてくれるなら、エアコンつけるのに」とブツブツ言いながら、扇風機で我慢して過ごしていました。

ちなみに、ここの公園はいつもボランティアで清掃をしていますが、暑すぎるので今年の夏は活動中止になりました。参加者に高齢者が多いので、やはり外での活動は危険ですよ。

暑いのは大変ですが、暑い夏だからこそその楽しみがあります。それは、かき氷です。

私はかき氷がすごく好きで、かき氷のことばかり考えている「かき氷マニア」です。

美味しいかき氷はいろいろありますが、私は家のかき氷器で作る素朴なかき氷が一番好きです。

毎年、物置から古いかき氷器を出しますが、これは子どもが小さい頃に近くのスーパーで買ったものです。30年近くずっと使っていて、夏の間は毎日のようにかき氷を作って食べています。

今回はかき氷についての豆知識というか、調べたことがあるので、皆さんに「へ～」と言っていただけたらいいなと思い、簡単にお話をします。

冷たいかき氷を食べると、頭がきーんと痛くなりますよね。

かき氷を食べて頭が痛くなった経験をした方が多いと思います。

実は「アイスクリーム頭痛」という名前で、これは医学的な正式名称だそうです。

アイスクリーム頭痛の原因には、2つの説があります。

1つ目は、かき氷が喉にある「三叉神経」を刺激し、伝達信号として脳に伝わり、脳がその刺激を「痛み」と勘違いするという説です。

2つ目は、かき氷を食べると急に喉や口の中が冷えるため、一時的に血流の量を増やすことで温めようとして、脳につながる血管が膨張して頭痛が起きるという説です。

原因には2つの説があることはわかりましたが、じゃあ、かき氷を食べても頭が痛くならないためには、どうしたらいいのか気になりますよね。

予防法は、かき氷をゆっくりと時間をかけて食べることだそうです。

また、かき氷の作り方によっても、アイスクリーム頭痛を防ぐことができます。

がりがりした固いかき氷よりも、ふわふわのかき氷のほうが頭が痛くなりにくいですよ。

ふわふわのかき氷は氷を薄く削ってあるので、口の中ですぐに溶けて冷えにくいからだそうです。

いかがでしたか。ほんのちょっとですが、かき氷の豆知識をお話ししました。
皆さん「へ～」と喜んでいただけたでしょうか。

最後に、俳句の夏の季語である「かき氷」を使った俳句を募集します。

市で募集していて、優秀作品は市の広報誌に掲載されるそうです。

総合受付のテントに俳句を記入する用紙とえんぴつがあるので、「かき氷」という季語を入れた俳句を書いて、提出用の箱に入れてくださいね。

今日出せなくても、応募の締切は9月30日の17時までなので、ゆっくり考えても大丈夫です。

この地域は「かき氷」がテーマですが、他の地域ではそれぞれお題を決めて募集しています。

優秀作品に選ばれたら賞品がもらえるようです。皆さんぜひご応募くださいね。

以上です。

1442/2493 文字